

ロズナむ詩

マンモス

阪田寛夫

ライオン王さん  
どえらい声でいきました  
ものろもつるけんー  
つるきましたは なめくじら  
とんまなねこが一匹  
さあたいへん  
ふくれましたはライオン王さん  
しほたんなんぞ はり倒し  
マンモスはどないしよったあー  
マンモスはひるねですわい

さかた ひろお  
阪田寛夫 (書名)

小説家・詩人

この詩は、昭和二十六年に書きました。私は二十五歳で、まだ大学生でした。戦争中兵役で、二年間中国にいたから遅れたのです。軍隊では入院していた期間が長く、まるで詩の中の「なめくじら」のようです。空襲で衛生兵や歩ける患者が退避している間、なぜか寝台でライオン王さんの詩を考えていました。